

## わがまちトピックス

夏の午後にタンゴやジャズの響きを...

### トリオ・ミュジニー ～ピアノ三重奏による アルゼンチンタンゴとジャズの響き



釋伸司



山岸孝教



小池泉

- 日時 7月28日(土)午後2時開演  
(午後1時30分開場)
- 会場 市民センター音楽室
- 定員 120人(応募多数は抽選  
芦屋市民優先)
- 曲目 ピアソラ:ブエノスアイレスの四季、  
リベルタンゴ、オブリビオン、ル・グラン・  
タンゴ/シェーンフィールド:カフェミュ  
ジック ほか
- 出演 トリオ・ミュジニー  
ヴァイオリン:釋伸司(京都フィルハーモ  
ニー室内合奏団客演コンサートマスター)

チェロ:山岸孝教(アマービレフィルハー  
モニー管弦楽団首席チェロ奏者)  
ピアノ:小池泉(大阪音楽大学非常勤講師)

- 参加費 500円
- 申し込み はがきかファクスに、音楽会名  
・氏名・住所・電話番号・参加人数(1人ま  
たは2人)を記入し、7月11日(水)〈必着〉  
で下記へ

問い合わせ  
公民館 ☎35-0700/FAX31-4998  
(〒659-0068 業平町8-24)

夏休み映画を楽しもう!

### いきいきシネマサロン

問い合わせ  
ルナ・ホール事業担当  
☎35-0700

#### 「キセキの葉書」

阪神淡路大震災から半年。  
西宮市を舞台に、難病の娘と、  
認知症とうつ病を併発する母  
に挟まれながらも、度重なる  
試練を乗り越え、勇敢に生き  
抜く主人公の実話に基づく感  
動の物語。

©2017「キセキの葉書」製作委員会



- 日時 7月21日(土)①午前10時10分②午後1時③3時30分【時  
間90分】
- 会場 ルナ・ホール
- 出演 鈴木紗理奈 ほか
- 入場料 中学生以上1,000円(小学生500円)※この広報掲載記事  
持参で中学生以上200円引き。未就学児の入場はご遠慮ください。

防犯特別講演会

### 「防犯～まちの安全を考える」

問い合わせ 芦屋防犯協会 ☎32-0003



森直也氏

- 日時 7月10日(火)午後2時～4時
- 会場 市役所東館3階大会議室
- 内容&講師 特別講演「犯罪被害者の心理と行動  
傾向」森直也氏(弁護士)/防犯寄席「特殊詐欺防止落  
語」月亭八斗(落語家)
- 定員 個人・グループ・先着140人
- 申し込み はがきまたはファクスに、氏名・住所・電話  
番号・ファクス番号を記入し、上記へ



月亭八斗

平成30年度芦屋市男女共同参画センター講座

### 「子育て世帯のマネープラン」

問い合わせ 男女共同参画センター  
☎38-2023/FAX38-2175  
✉josei-ce@city.ashiya.lg.jp  
(〒659-0065 公光町5-8)

子育て世帯にとって気になる「お金」のこと…  
ライフイベントに合わせた世帯のマネープランを考えてみませんか

- 日時 7月14日(土)午前10時～正午
- 会場 男女共同参画センター セミナー室
- 対象 未就学児を持つ親・妊娠中の人(配偶者やパートナーも可)  
先着15人(要予約)
- 講師 トータルマネジメントオフィス代表 長谷川まゆみ氏(ファイ  
ンシャルプランナー)
- 一時保育 0歳6カ月以上未就学児・定員4人(1人300円)〈要予約〉
- 申し込み 氏名・住所・電話・ファクス番号(一時保育希望者は、子ども  
の氏名・年齢月齢)を記入し、6月15日～7月6日に、電話・ファクス・  
Eメールまたは上記窓口(日曜、祝日を除く)へ



長谷川まゆみ氏



©2016 Universal Studios. All Rights Reserved

#### 「怪盗グルーの ミニオン大脱走」

全世界待望のイルミネー  
ション・エンターテインメ  
ント最新作。シリーズ史上  
最大のスケールで繰り広げ  
られる笑いと興奮と感動の  
物語。

- 日時 7月28日(土)①午前10時30分②午後1時30分【時間90分】
- 会場 ルナ・ホール
- 入場料 500円(3歳以上)



石臼を使った石垣(山芦屋町)

梅雨が明けると本格  
的な夏が到来します。  
そんな夏の風物詩の一  
つに、「そうめん」が挙  
げられます。実は、かつ  
て芦屋では、そうめん  
が作られていました。  
芦屋では、江戸時代  
中頃から河川の急流を  
活かした、水車業が盛  
んでした。水車の動力  
を使い、酒米の精米や菜種油絞り  
を行っていましたが、明治時代に  
入ると、そうめんの原料である、小  
麦粉の製造に利用されるようにな  
りました。小麦粉をそうめんにな  
製する作業は、農民や漁師が担っ  
ていました。そのため、農閑期であ  
る12月初めから3月初めに行わ  
れ、主に東芦屋・西芦屋・三条・打出  
などで作られていました。  
作業は、寝る時間もないほどの

大変な労働でしたが、神戸や大阪  
という一大消費地が近くにあって  
ことから、盛んに作られ、その頃と  
しては、利益の大きい仕事の一つ  
で、一年間の収入で家が建つ(千円  
普請)と言われていました。  
灘目(なだめ)地方(芦屋川と生  
田川)で作られていたそうめんを  
総称して、「灘目素麺」などもそ  
うめん」という名で知られていま  
したが、芦屋のそうめん作りは、大  
正時代になると衰退していきま  
す。その理由は、播州そうめんの進  
出や芦屋の宅地化によるため  
です。そうめんと同じく、小麦粉を挽  
いていた水車も、動力の近代化に  
よって、昭和20年代までに廃絶し  
ました。

当時の水車の姿を今見ることは  
できませんが、山芦屋町付近をは  
じめとする芦屋川中流の西岸で  
は、水車場で使用されていた石臼  
が、宅地の石垣石材として転用さ  
れている風景を見ることができ  
ます。



城山山麓の水車

今から約150年前(明治時代)  
芦屋で作られていた  
幻のそうめん

芦屋タイムトラベル 問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115